

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02610

研究課題名(和文) 第二次大戦後フランス文学における前衛の諸問題

研究課題名(英文) Several problems of the avant-garde in French literature after the Second World War

研究代表者

進藤 久乃 (SHINDO, Hisano)

國學院大學・文学部・准教授

研究者番号：40613922

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまであまり論じられることのなかった第二次世界大戦後フランスにおける前衛を研究対象とするものである。前衛を名乗ったグループや詩人、及び前衛に対峙した者たちについての研究を通じ、この時期の前衛を文学史的に位置づけることを目指した。その成果として、以下の二点が挙げられる。

まず、第二次世界大戦の影響を再検討した上で、前衛グループや詩人たちの見取り図をある程度描くことができた。また、この時期の前衛の特徴のひとつとして、「詩や芸術作品がいかんして作品の枠を超え、社会に関わりうるのか」という問いに多様なやり方で答えるものであることを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまであまり論じられてこなかった第二次世界大戦後フランスにおける前衛に焦点を当て、概要を把握し、共通する問題点を浮き彫りにすることができた。最終年度にその成果を『戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史』(水声社)として発表することができた。今後、現代に至る戦後フランスの前衛史についてより深く研究する契機になると思われる。

研究成果の概要(英文)：Our research examines avant-garde groups and poets after the Second World War, which previous research has not yet discussed. Thus, we clearly made two points as result.

- 1) After investigating the influence of the Second World War on contemporary avant-garde movements, we have managed to outline the avant-garde groups' post-war history.
- 2) We have been able to clarify one of the characteristics of the "avant-gardes" after the war: many of them asked themselves in what way do artistic and poetic works exert an influence on society by breaking the framework of their own works, and responding to this question in various ways.

研究分野：フランス文学

キーワード：前衛 CoBra レトリズム 音声詩 視覚詩 アンテルナショナル・シチュアシオニスト ジャン・ポーラン

1. 研究開始当初の背景

20世紀初頭のヨーロッパでは、前衛と呼ばれる芸術運動が次々と生み出された。フランス文学史の文脈でも、未来派からダダイズムを経てシュルレアリスムに至る流れについてはこれまで比較的よく論じられてきた。しかし、一般的にシュルレアリスムが衰退したとみなされている第二次世界大戦後の前衛についてはほとんど論じられていない。

その理由のひとつとして、過去との断絶を強調し新しさを追求するという意味における前衛的態度が、アントワーン・コンパニオンなどによって批判的に論じられてきたことが挙げられる。近年の研究では、個々の芸術運動や詩人・芸術家がいかに関心を持って「前衛ではないか」という点に焦点が当てられ、過去や同時代と結んだ複雑な関係が浮き彫りになったといえよう。このような点を踏まえ、第二次世界大戦以降の前衛を考える際も、新しさの追求のみならず、社会との関わりや言語の可能性の探究という側面がどのように発展したのかを考察していく必要があると思われる。

第二次世界大戦後の前衛という問題は、研究代表者(進藤久乃)が平成25年度若手研究(B)の枠内で「第二次大戦下のパリ・シュルレアリスム:「ペンを持つ手」グループがひらく新たな展望」を遂行する中で提起されたものでもある。アンドレ・ブルトンらシュルレアリスムの主要メンバーが不在のナチス占領下フランスにおいて、ジャン＝フランソワ・シャブラン、ノエル・アルノー、クリスチャン・ドートルモンなどの若い詩人たちは、「ペンを持つ手」と名乗るグループを組織し、シュルレアリスム活動を引き継ごうとした。亡命中のシュルレアリストらとは異なる問題意識を持った彼らは、第二次世界大戦直後、「革命的シュルレアリスム」を組織し、帰国したブルトンらのシュルレアリスムと訣別する。短命に終わった革命的シュルレアリスムは、しかし、戦後に前衛を名乗る(あるいは対峙する)複数の運動(コブラ、アンテルナシオナル・シチュアシオニスト、コレージュ・ド・パタフィジック、ウリポ)が発足するきっかけともなった。彼らの活動を戦後のシュルレアリスムと共に考えることで、しばしば戦後に衰退したとみなされてきたシュルレアリスムを再検討することにもつながると考えた。

本課題申請時のメンバーである進藤、熊木淳、前山悠、門間広明は、2017年日本フランス語フランス文学会春季大会(ワークショップ)において、「20世紀フランス文学をめぐるアヴァンギャルド的思考」と題するパネル発表を行った。研究代表者(進藤)はペンを持つ手と革命的シュルレアリスム、前山がコレージュ・ド・パタフィジックとウリポ、門間がアンテルナシオナル・シチュアシオニスト、熊木が特定のグループに属さずに活動を展開したベルナル・ハイツィックやジュリアン・プレーヌの作品に関する発表を行った。本パネルでは、「前衛」の定義がグループ、詩人ごとに異なるものであることが問題点として浮かび上がり、戦後前衛の文学史的な位置づけを明らかにすることが本研究の目的のひとつとなった。

また、本課題を発足するにあたり、菊池慶子と久保田齊也が参加し、前者はサミュエル・ベケットを通じて演劇におけるメディアを扱い、後者はジャン・ポーラン研究を通じて前衛の批判を考察することとなった。

2. 研究の目的

本研究は、20世紀初頭の前衛に比べ、フランス文学の文脈であまり注目されてこなかった第二次大戦後の前衛の活動に焦点を当てることを目的とした。

ヨーロッパにおいて20世紀初頭という時代を特徴づけてきた前衛運動は、第二次大戦後フランス文学において、第一の特異性である「新しさ」の神話とその効力を失っていくにつれて、衰退していったと考えられている。しかし、芸術と生の関わりやその手段という面から考察すると、前衛は戦後、別の形で発展を続けたのではないかと。

本研究では、それを名乗るにしろ対峙するにしろ、「前衛」の概念と関わりを持った芸術運動(レトリズム、アンテルナシオナル・シチュアシオニスト、テルケル、ウリポ、シュルレアリスム)や作家・詩人たちの作品や活動を分析することにより、第二次世界大戦後の前衛を文学史的に考察することを目指した。

3. 研究の方法

各メンバーがそれぞれの担当する詩人やグループについて個別研究を進めながら、定期的な研究会やシンポジウムの機会を設けることで文学史的位置づけについての議論を深めることを目指した。

(1)【個別研究】第二次世界大戦後のフランス文学の状況を再検討し、大戦後フランス文学において前衛を名乗った、あるいは前衛と対峙する者たち(前者としてはコブラ、レトリズム、アンテルナシオナル・シチュアシオニスト、個人で活動した音声詩・視覚詩の詩人たち、後者としてはコレージュ・ド・パタフィジック、ウリポ、ジャン・ポーラン)の言説を整理し、作品を分析する。

(2)【共同作業】上述の作業を踏まえ、詩作品、展覧会、パフォーマンスなど、前衛たちの活動に即してどのようなつながりや影響関係が見出せるかを明らかにし、第二次世界大戦後の前衛を文学史的に位置づけることを試みる。

4. 研究成果

2017年度から2019年度までは、それぞれのメンバーが個別研究を進めることが中心となった。進藤は「ペンを持つ手」から革命的シュルレアリスムを経てコブラとクリスチャン・ドートルモンについて、熊木はベルナル・ハイティックを中心とした音声詩について、門間はアンテルナシオナル・シチュアシオニストについて研究を進めた。一方、門間と久保田はジャン・ポーランについて、前山がコレージュ・ド・パタフィジックとウリポについて調査を進めることで、前衛という概念に対峙するグループや批評家についても研究を進めた。

この間、2017年度には、進藤、菊池、門間が表象文化論学会第12回大会にてパネル発表「戦争というトポス 占領から解放へ」を行い、戦後フランスにおける前衛を考察するにあたり第二次世界大戦という断絶が果たした役割について議論を深めた。また、2018年度からマリアンヌ・シモン＝及川が研究分担者として参加したことにより、音声詩・視覚詩の研究が大きく進んだ。

以上のような個別研究をまとめ、意見交換の場を設けるために、2019年度末（2020年3月）に国際シンポジウムを企画した。しかし、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、直前に中止にせざるを得なくなった。その後、本課題は数回延長を重ねたが、予定されていた発表者が集まる機会を作ることは困難であったため、発表予定者の論考をまとめる成果論文集の作成に切り替えた。成果論文集は、2023年11月に『戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史』（水声社）として出版し、シンポジウムに招聘する予定であったジャン＝ピエール・ボビヨ、ガエル・テヴァル、ラファエル・ケニグの論考も収録することができた。

成果論文集は、第一部で第二次世界大戦後の芸術運動を論じ、第二部で前衛の概念の周辺にいるグループや詩人、批評家を扱い、第三部は音声詩・視覚詩の発展を論じる、という構成となった。門間、前山、熊木は本論集の構成に深く関わった上で各章の導入を執筆し、執筆者の論考を取りまとめて前衛の文学史的位置づけを試みた。

（1）フランス文学史における戦後前衛の見取り図の作成

「1. 研究当初の背景」で述べたとおり、「革命的シュルレアリスム」に端を発するグループの数々は戦後前衛史において重要な位置を占めるが、より広い視点から、詳細な見取り図を描くことが必要であった。この時期は、ひとつの運動体から別の運動体へと継起するのではなく、小規模の複数のグループが同時に発生し、互いに影響を与え合っている。

第二次世界大戦後フランスの諸グループの歴史に関しては、レトリズムからアンテルナシオナル・シチュアシオニストの流れを論じた門間が、論文集の出版記念イベントにおいて、ベルギーシュルレアリスム（『裸の唇』誌）や、ウルトラ・レトリズムからヌーヴォーレアリスム、シニスムなどの流れを含めたより詳細な見取り図を提示した。

また、グループを形成せずに活動したために、影響関係の概要を把握することが難しい音声詩人・視覚詩人については、成果論文集において、ガエル・テヴァルが雑誌やフェスティバルといったまとまりを中心に研究する方法を示し、ジャン＝ピエール・ボビヨがレトリズムから現代の音声詩に至る理論的歴史を提示した。テヴァル、ボビヨの論文の日本語訳はそれぞれ森田俊吾、福田裕大が担当し、近現代フランス詩に精通した両氏と内容に踏み込んだ議論ができたことも実り多いものであったといえる。

（2）第二次世界大戦後の前衛の文学史的位置づけ

上述の作業を通じ、新しさの追求という点に還元されない前衛の特徴が浮かび上がってきた。そのひとつは、この時期に前衛の詩的・芸術的探究の多くが、「詩や芸術がいかんして狭義の作品の枠を超え現実に働きかけることができるのか」という社会的次元の問題をとまなう点であろう。この点は、『アヴァンギャルドの理論』（1974）の中でペーター・ビュルガーが挙げている前衛の特徴の再確認である。しかし、「詩や芸術活動はいかんして作品の枠を超えるのか」という問いに対する多様な答えのあり方を示したことは本課題の成果である。例えば、ドートルモンが手書き文字という言葉の物質性を現実に働きかける契機と考えるのに対し、ハイティックら音声詩人たちは、書物やページといった物質的な拘束からの開放が詩と社会の繋がりを再発見できると考える。

このように、詩的言語の実験の多様な形について、読者・鑑賞者の占める役割を含め、今後研究を進める余地があろう。その際、詩が美術や音楽、映画といった文学以外の芸術ジャンルと深く結びつくこと、地域と言語を超えた国際的な交流が副次的なものでないことも留意すべきであろう。

また、成果論文集に、ジャン・ポーラン、サミュエル・ベケット、フランシス・ポンジュなど、前衛という概念に対峙したり、その周辺にとどまったりした作家、詩人、批評家たちについての論考を収録できたことも、前衛を文学史的に考察する上で実り多いものだったといえる。

今後の研究では、本課題で扱うことのできなかったテル・ケルや『TXT』の詩人たちを含めた見取り図を完成させつつ、現代に至る前衛の可能性を、その複雑さと共に描き出すことを目指したい。

参考文献：進藤久乃編著『戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史』、水声社、2023年

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 門間広明	4. 巻 192
2. 論文標題 大理石と言語 ブランシヨ『文学空間』における「物質性」について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北海学園大学学園論集	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 門間広明	4. 巻 125-2
2. 論文標題 「見ること」の経験としての文学 ブランシヨの文学論から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 46-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 進藤久乃	4. 巻 125-2
2. 論文標題 クリスチャン・ドートルモンの初期の詩学における言葉の物質性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久保田齊也	4. 巻 31
2. 論文標題 ジャン・ポーラン論（6）－フェリックス・フェネオンとジャン・ポーラン	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ETUDES FRANCAISES	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi KUMAKI	4. 巻 1
2. 論文標題 Le Carrefour nous devorant : Les repetitions dans Le Carrefour de la Chaussee d'Antin	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Jean-Pierre Bobillot, Gaelle Cheval, Anne Royere (ed.), Bernard Heidsieck. La poesie debout	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SHINDO Hisano	4. 巻 単行本
2. 論文標題 La Main a plume. Un groupe surrealiste sous l'Occupation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Christine Lombez(dir.), Circulations litteraires : Transferts et traductions dans l'Europe en guerre 1939-1945, Presses de l'universite de Francois-Rabelais	6. 最初と最後の頁 67-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 進藤 久乃	4. 巻 121-9
2. 論文標題 占領下のシュルレアリスム「ペンを持つ手」におけるイメージ論の展開と実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Marianne Simon-Oikawa	4. 巻 1093
2. 論文標題 Ilse Garnier (1927-2020), une vie dans l'espace	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Europe	6. 最初と最後の頁 317-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Marianne Simon-Oikawa	4. 巻 54
2. 論文標題 L'écriture scénaristique d'Ilse Garnier : pour une poétique du ciné-poème spatialiste	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revue de langue et de littérature françaises	6. 最初と最後の頁 107-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kumaki Atsushi	4. 巻 1
2. 論文標題 La poésie et l'entreprise : travail et répétition chez les poètes sonores	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Fabula / Les colloques, La poésie contemporaine, les médias et la culture de masse (dir. Levente Selaf, Zsófia Szatmari)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.58282/colloques.7431	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 MAEYAMA Yu	4. 巻 19
2. 論文標題 Watanabe Kazuo, Satrape du Collège de 'Pataphysique	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文	6. 最初と最後の頁 53-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田 斉也	4. 巻 27
2. 論文標題 ジャン・ポーラン論(3) ある精神的「幻想」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ETUDES FRANÇAISES 早稲田大学フランス語フランス文学論集	6. 最初と最後の頁 156-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門間 広明	4. 巻 26
2. 論文標題 ジャン・ポーランと対独協力作家の肅清(2) 『レジスタンス指導者への手紙』について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Etudes francaises	6. 最初と最後の頁 130-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田 育也	4. 巻 26
2. 論文標題 ジャン・ポーラン論(2) 『文彩論』について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Etudes francaises	6. 最初と最後の頁 117-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yu MAEYAMA	4. 巻 21
2. 論文標題 Contre l' avant-garde, loin de l' arriere-garde : conscience historique et mise en oeuvre des savoirs " marginalises " au sein de l' Oulipo	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Formules	6. 最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Marianne Simon-Oikawa	4. 巻 単行本
2. 論文標題 Les relations de Pierre et Ilse Garnier avec le poete japonais Niikuni Seiichi	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Christine Dupouy (dir.), Deux poetes face au monde : Pierre et Ilse Garnier, Presses universitaires Francois Rabelais	6. 最初と最後の頁 51-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KUMAKI Atsushi	4. 巻 8
2. 論文標題 Espace de la page, espace de la performance : la poesie action de Bernard Heidsieck	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Savoir en prisme	6. 最初と最後の頁 web journal
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SHINDO Hisano	4. 巻 1
2. 論文標題 La poesie de la Main a plume : le surrealisme sous l'Occupation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Hiromi Matsui (dir.), Images de guerres au XXe siecle, du cubisme au surrealisme	6. 最初と最後の頁 71-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門間 広明	4. 巻 25
2. 論文標題 ジャン・ポーランと対独協力作家の肅清(1) 『麦藁と麦粒』について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Etudes francaises 早稲田大学文学部フランス文学研究室	6. 最初と最後の頁 172-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田 斉也	4. 巻 25
2. 論文標題 ジャン・ポーラン論(1)ことわざの経験	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Etudes francaises 早稲田大学文学部フランス文学研究室	6. 最初と最後の頁 159-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池慶子	4. 巻 48
2. 論文標題 サムエル・ベケット『芝居』と初期ストア派の哲学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京医科歯科大学教養部研究紀要	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池慶子	4. 巻 8
2. 論文標題 神経症のバークリー サミュエル・ベケット『フィルム』における生と死の葛藤	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 表象・メディア研究	6. 最初と最後の頁 17-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 進藤久乃、長谷川晶子、ヴァンサン・マニゴ、谷昌親 (コメンテーター)
2. 発表標題 第二次世界大戦後の前衛・日仏の前衛
3. 学会等名 『戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史』(水声社) 出版記念イベント
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 綾部麻美、菊池慶子、後藤渡 (コメンテーター)
2. 発表標題 前衛を相対化する視線
3. 学会等名 『戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史』(水声社) 出版記念イベント
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 熊木淳、森田俊吾、門間広明、塚原史（コメンテーター）
2. 発表標題 視覚詩と音声詩 前衛から実験へ
3. 学会等名 『戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史』（水声社）出版記念イベント
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 MAEYAMA Yu
2. 発表標題 Watanabe Kazuo, Satrap of the College de ' Pataphysique
3. 学会等名 "Across Borders : ' Pataphysics in a Transmedial and Transnational Perspective", American Comparative Literature Association, 4月11日（オンライン）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Marianne Simon-Oikawa
2. 発表標題 Typographie, calligraphie, peinture : formes et enjeux de l' ecriture dans la poesie visuelle japonaise depuis les annees 1960
3. 学会等名 "Ecritures japonaises : concevoir des caracteres typographiques", BULAC / Inalco, 10月28日（オンライン）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Marianne Simon-Oikawa
2. 発表標題 Metamorphoses de l' ecriture dans la poesie visuelle japonaise contemporaine
3. 学会等名 "Premiere journee internationale de poesie visuelle : recherche et creation", Casa das Rosas Espaco Haroldo de Campos de Poesia e Literatura, 11月10日（オンライン）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 SHINDO Hisano
2 . 発表標題 Les photocollages d'Andre Breton dans les annees 1930
3 . 学会等名 "Surrealisms 2019-The International Society for the Study of Surrealism", 29 aout 2019, University of Exeter (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Marianne Simon-Oikawa
2 . 発表標題 Espaces du couple : "collaboration ideale" et creation personnelle chez Ilse et Pierre Garnier
3 . 学会等名 "Relire les Avant-Gardes : deux two dos zwei due", 10-11 octobre 2019, Universite Cote d ' Azur (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Marianne Simon-Oikawa
2 . 発表標題 Esthetique de la " poesie habitable " . Prototypes/Textes pour une architecture d ' Ilse et Pierre Garnier
3 . 学会等名 "Le Temps des cathedrales et ses metamorphoses dans l'oeuvre d ' Ilse et Pierre Garnier", 7 mars 2020, Maison du theatre, Amiens (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 KUMAKI Atsushi
2 . 発表標題 La poesie et l ' entreprise : le travail repete vu par la poesie sonore
3 . 学会等名 "La poesie contemporaine, les medias et la culture de masse", 19 septembre 2019, Universite Lorand Eotvos (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 SHINDO Hisano
2. 発表標題 Le surrealisme-revolutionnaire et la reorganisation de groupes d' avant-garde
3. 学会等名 SURREALISMS Inaugural Conference of the ISSS (The International Society for the Study of Surrealism (国際学会))
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 進藤 久乃
2. 発表標題 オスカル・ドミンゲスをめぐって
3. 学会等名 ワークショップ「シュルレアリスム美術を読む」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊池 慶子
2. 発表標題 神経症のパークリー：『フィルム』における生と死の葛藤
3. 学会等名 日本サミュエル・ベケット研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 進藤久乃、菊池慶子、門間広明（司会：千葉文夫、コメンテーター：安原伸一朗）
2. 発表標題 戦争というトポス 占領から解放へ
3. 学会等名 表象文化論学会第12回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊木 淳
2. 発表標題 ページ、朗読、パフォーマンス ベルナール・ハイツィックの行動詩とクリスチャン・プリジャンの『書かれたものの声』
3. 学会等名 フランス音声詩をめぐって アンヌ＝ロール・シャンボワシエ氏を招いて
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yu MAEYAMA
2. 発表標題 Contre l'avant-garde, loin de l'arriere-garde : conscience historique et mise en oeuvre des savoirs "marginalises" au sein de l'Oulipo
3. 学会等名 L'Oulipo et les savoirs (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 進藤久乃(編著)、ラファエル・ケニーグ、長谷川晶子、門間広明、ヴァンサン・マニゴ、久保田齊也、綾部麻美、菊池慶子、前山悠、ガエル・テヴァル、熊木淳、マリアヌ・シモン＝及川、ジャン＝ピエール・ボビヨ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 368
3. 書名 戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史	

1. 著者名 Marianne Simon-Oikawa, Carole Aurouet (dir.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Classiques Garnier	5. 総ページ数 356
3. 書名 Jacques Prevert, detonations poetiques	

1. 著者名 Maxime Decout, Yu Maeyama (dir.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Castor astral	5. 総ページ数 256
3. 書名 La Disparition : un demi-siecle de lectures (Cahiers Georges Perec 13)	

1. 著者名 Marianne Simon-Oikawa	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Nouvelles editions Place, coll. Le cinema des poetes	5. 総ページ数 112
3. 書名 Les poetes spatialistes et le cinema	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	熊木 淳 (KUMAKI Atsushi) (90738618)	獨協大学・外国語学部・専任講師 (32406)	
研究分担者	菊池 慶子 (KIKUCHI Keiko) (00609886)	慶應義塾大学・経済学部(日吉)・講師(非常勤) (32612)	
研究分担者	M A R I A N N E S I M O N ・ O (SIMON-OIKAWA Marianne) (70447457)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	門間 広明 (MOMMA Hiroaki) (50507100)	北海学園大学・法学部・准教授 (30107)	
研究分担者	前山 悠 (MAEYAMA Yu) (50789443)	大分県立芸術文化短期大学・その他部局等・講師 (47501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	久保田 齊也 (KUBOTA Yoshiya)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 "Illustrer ? XIXe-XXe siecles" Universite Paris Diderot et INHA	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 フランス音声詩をめぐって アンヌ＝ロール・シャンボワシエ氏を招いて	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関